



2020年7月30日

各 位

会社名 協栄産業株式会社
代表者名 取締役社長 平澤 潤
(コード番号 6973 東証第一部)
問合せ先責任者 取締役常務執行役員
村本 篤
(TEL 03-3481-2111)

連結業績予想及び配当予想に関するお知らせ

当社は、2020年5月26日に公表した「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において、未定としておりました2021年3月期連結業績予想及び配当予想について、下記の通りといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想及び配当予想について

(1)2021年3月期第2四半期業績予想数値(2020年4月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回予想(B)	24,000	△250	△250	△270	△88.61
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	28,826	262	235	288	94.51
(ご参考)前期実績比(%)	△16.7	—	—	—	—

(2)2021年3月期通期業績予想数値(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 —	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 —
今回予想(B)	50,000	△200	△200	△250	△82.04
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	57,970	363	319	△241	△79.20
(ご参考) 前期実績比(%)	△13.7	—	—	—	—

(3)2021年3月期配当予想

	年間配当金		
	中間	期末	合計
前回発表予想(A)	円・銭 —	円・銭 —	円・銭 —
今回予想(B)	10.00	10.00	20.00
当期実績(C)			
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	20.00	20.00	40.00

2. 連結業績予想及び配当予想の公表について

2021年3月期連結業績予想及び配当予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大により、合理的な見積りが極めて困難であることから未定といたしておりましたが、その後、日本政府により緊急事態宣言が解除され、段階的に、国内の移動自粛や施設の使用制限の要請緩和など「新しい生活様式」の定着を図りながらの経済活動が再開され始めました。

しかしながら、今なお、世界各国においては、感染が拡大していることで、人・モノの移動に制限が生じ、サプライチェーンが正常化するまでには今暫く時間を要する見込みであり、また、これに伴い、生産活動にも一定の期間影響を及ぼすことが予想されます。

このような状況を踏まえ、当社グループに関連する事業活動が新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける期間を12月までとする前提のもと、連結業績予想及び配当予想を公表するものであります。

3. 連結業績予想について

通期売上高 500億円(前期比 13.7%減)

第2四半期(累計)売上高 240億円(前年同期比 16.7%減)

半導体デバイス事業及びプリント配線板事業は、新型コロナウイルス感染拡大により、自動車関連市場や産業機関連市場、白物家電関連市場の低迷による需要の低下ならびに設備投資の先送りに伴う影響を受けるとともに、半導体デバイス事業では、主要仕入先であったルネサスエレクトロニクス株式会社との特約店契約を

解消したことなどで、販売減少が見込まれますが、第4四半期よりサプライチェーンが正常化に近づくと予想されるため、販売面は回復傾向で推移すると見込まれます。

産業機器システム事業は、半導体メーカーの投資が回復基調であることより、半導体製造装置メーカーへの受注販売は堅調に推移すると思われます。しかしながら、産業機関連市場向けなどは、市場の低迷により設備投資の先送りの影響を受けることが見込まれます。

システム開発事業は、足許では、新型コロナウイルス感染拡大により、受注活動に制約を受けたことにより、期中での仕掛品の減少が見込まれます。

以上より、産業機器システム事業及びシステム開発事業は、事業の特性上、第4四半期より設備・システム投資が回復する傾向が見込まれると想定致しますが、販売面に寄与するには一定の期間を要するため、販売減少傾向で推移すると見込まれます。

この結果、第2四半期（累計）売上高は240億円、前年同期に比べて16.7%の減収、通期売上高は500億円、前期に比べて13.7%の減収となる見通しです。

通期営業損失 2億円 (前期営業利益 3億6千3百万円)

第2四半期（累計）営業損失 2億5千万円 (前年同期営業利益 2億6千2百万円)

半導体デバイス事業及びプリント配線板事業では、第4四半期よりサプライチェーンが正常化に近づくと予想されるため、販売面は回復傾向で推移すると予想していますが、産業機器システム事業及びシステム開発事業は、事業の特性上、第4四半期より設備・システム投資が回復する傾向が見られると想定致しますが、販売面に寄与するには一定の期間を要すると見込まれます。斯かる状況のなか、効率的な営業活動を推進することで経費の削減に注力するものの需要の回復が第4四半期以降になると見込まれるため、第2四半期（累計）営業損失をカバーする水準までの需要回復に至らないものと見込まれます。

この結果、第2四半期（累計）営業損失は、2億5千万円（前年同期営業利益は、2億6千2百万円）、通期営業損失は、2億円（前期営業利益は、3億6千3百万円）となる見通しです。

通期経常損失 2億円 (前期経常利益 3億1千9百万円)

第2四半期（累計）経常損失 2億5千万円 (前年同期経常利益 2億3千5百万円)

現時点では、業績に大きく影響する営業外収益、営業外費用は見込まれていないことより、第2四半期（累計）経常損失は、2億5千万円（前年同期経常利益は、2億3千5百万円）、通期経常損失は、2億円（前期経常利益 3億1千9百万円）となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純損失 2億5千万円

(前期親会社株主に帰属する当期純損失 2億4千1百万円)

第2四半期（累計）親会社株主に帰属する四半期純損失 2億7千万円

(前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益 2億8千8百万円)

現時点では、業績に大きく影響する特別利益、特別損失は見込まれていないことより、第2四半期（累計）の親会社株主に帰属する四半期純損失は、2億7千万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益 2億8千8百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は、2億5千万円（前期親会社株主に帰属する当期純損失 2億4千1百万円）となる見通しです。

4. 配当予想について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な政策の一つとして位置づけるとともに、安定的な配当の維持を基本として、業績の推移、財務状況、配当性向等を総合的に勘案して、利益配分を行うことを基本方針といたしております。

しかしながら、2021年3月期の配当予想につきましては、上記連結業績予想のとおり、営業損失及び当期純損失が予想されることを勘案し、誠に遺憾ではありますが、配当予想を、1株当たり20円（中間10円、期末10円）とさせていただきます。

企業価値の向上及び収益体質の早期回復に向け、更なる経営努力を重ねてまいり所存でございますので、何卒、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

上記の連結業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しており、実際の連結業績予想及び配当予想は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上